

欧州の2大LCC

Ryanair と easyJet を概観する (3)

2018 年 6 月 12 日

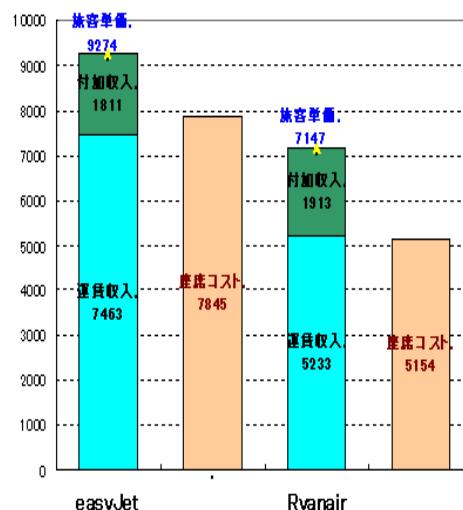
両社の収益性を指標で比べてみた。金額は (＄=147 円、€=129 円) で換算している。
 (両社に若干の路線距離差はあるが、発着便当り、発着座席・旅客当りで見の方が、実態をより分かり易く理解できると判断)

1. 収益性指標；

easyJet の利益は決して小さいとはいえないが、Ryanair の方は目立って大きい。
 その差はどこから来るのであろうか？

- ① 供給規模が大きいこともあって収入は Ryanair の方が 1000 億円以上多い。
 特に付加収入が多い。
 しかし両社の差は規模ほどではない。
 easyJet の収入単価が高いためである。
 ⇒ (収入単価) easy ; 9,274 円、Ryan ; 7,147 円
 (うち付加) easy ; 7,463 円、Ryan ; 5,233 円
- ② 費用は Ryan の方が 200 億円以上も少ない。
 座席コストが大幅に安いためである。⇒ easy ; 7,845 円、Ryan ; 5,154 円
- ③ 両社 90% を超す搭乗率ながら、Ryan は B/E が 72% と低いことで収益性がより高い。

(収入単価と座席コスト)



		easyJet (2017.9)	Ryanair (2017.3)	差	率
営業収益	億円	7,419	8,576	1,157	116
(運賃収入)	億円	5,970	6,280	310	105
(付加収入)	億円	1,449	2,296	847	158
営業費用	億円	6,825	6,597	-228	97
営業利益	億円	594	1,979	1,385	
便数	千便	517	675	159	131
席数	百万席	87	128	41	147
旅客数	百万席	80	120	40	150
搭乗率	%	92	94	2	
旅客単価	円	9,274	7,147	-2,127	77
(うち運賃収入)	円	7,463	5,233	-2,229	70
(うち付加収入)	円	1,811	1,913	102	106
座席コスト	円	7,845	5,154	-2,691	66
B/E	%	85	72	-12	

2. 1便当りでの指標比較；

- ① 座席数と旅客数； easy は 168 席に旅客 155 人が搭乗し、うち 13 人分の収入が利益に相当する。(A319 型機材が小さいため平均席数が小さい)
Ryan は高密度の 189 席に 178 人が搭乗し、41 人分の収入が利益に相当する。

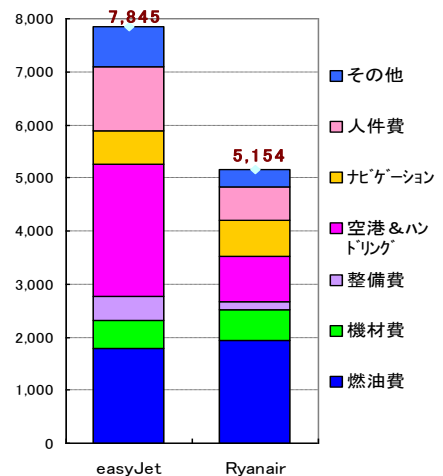
- ② Ryan は便当り収入が 127 万円で easy より 17 万円も少ないが、費用が大幅に少ないため、29 万円と大きな利益が出ているのである。

(1便当り)		easyJet (2017.9)	Ryanair (2017.3)	差	率
座席数	席	168	189	21	113
旅客数	人	155	178	23	115
B/E旅客数	人	142	137		
利益相当旅客数	人	13	41		
収入	万円	144	127	-17	88
費用	万円	132	98	-34	74
利益	万円	11	29	18	

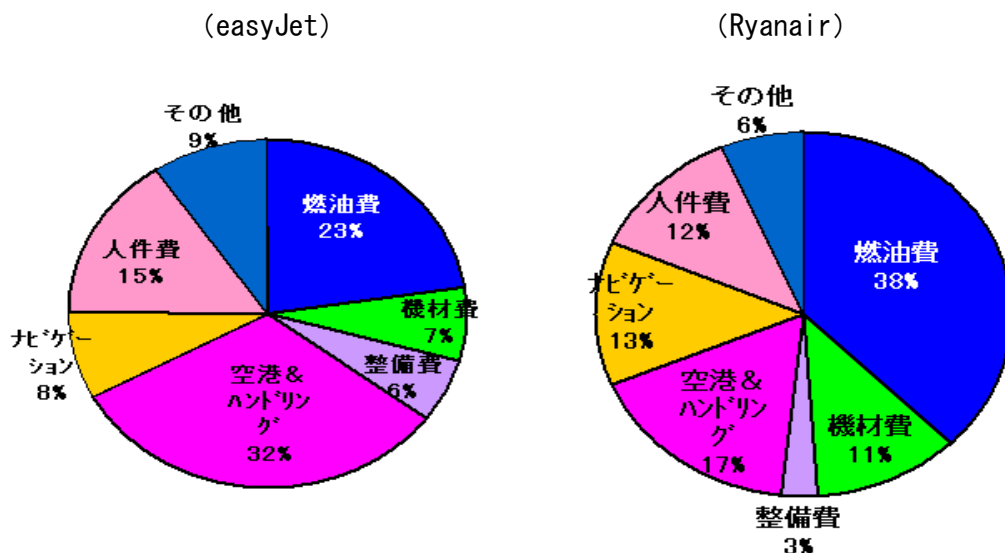
3. 1座席当りの費用内訳（単位；円）

- ① Ryanは「空港&ハンドリング費用」が顕著に低く、「人件費」も低い。
空港使用料が安く優遇措置も受けやすい第2ノ・第3空港を選んでいることによる。
- ② Ryanが「人件費」も低いのは、少ない人数で、多い座席（189席）を処理していることによると考えられる。
- ③ easyの「機材費」の低さは、A319型機の調達コスト安の影響もあると思われる。
- ④ Ryanの「燃油費」の多さは運航距離の長さに起因するものであろう。
- ⑤ Ryanの「整備費」の少ない一因として、やや機齢が若いという要素も考えられる。

	easyJet (2017.9)	Ryanair (2017.3)	差	率
燃油費	1,794	1,928	134	107
機材費	515	588	73	114
整備費	463	142	-321	31
空港&ハンドリング	2,476	872	-1,604	35
ナビゲーション	644	661	17	103
人件費	1,211	638	-573	53
その他	741	325	-416	44
営業費用	7,845	5,154	-2,691	66



- ⑥ 各費用の構成割合をみると、Ryanairは「燃油費」が、easyJetは「空港&ハンドリング」が突出して多いことがわかる。
また運航（燃油、機材、ナビゲーション、整備）と空港の5つの費用で、Ryanairは8割以上、easyJetも3/4以上を占めているのは、他の諸経費を極度に切り詰めているためと考えられる。



(余話) Ryanair の付加料金の例 ;

下記は付加収入のうち、搭乗に係るものの例である。

他の LCC も同様・類似のものを徴収しているが、Ryan は特に多く、料金も高い。

他にも機内での収入や、HPからの他社（ホテル・レンタカー等）の予約手数料も多い。

因みに 2017.3 月期のインターネット関連収入は 112 億円である。

(Ryanair の搭乗に係る付加料金の例)

空港チェックインFee		€55(¥7095)
座席指定(席種による)	€4~15(¥516~1935)	
先行(優先)搭乗	€5(¥645)	€6(¥774)
搭乗券再発行		€20(¥2580)
搭乗便変更(追加料金) (運賃差額が別途発生)	€35~60 (¥4515~7741)	€50~95 (¥6450~12255)
搭乗者名変更	€115(¥14835)	€160(¥20640)
乗遅れ⇒代替便		€100(¥12900)
預け手荷物(1個)	€25(¥3225)	€40(¥5160)
手荷物超過重量(1kg毎)		€10(¥1290)
スポーツ用品 ・自転車/スキー/ゴルフ等	€35~60 (¥4515~7741)	€40~75 (¥5160~9675)
乳幼児料金(2歳まで)	€25(¥3225)	
乳幼児用バギー等	€15(¥1935)	€25(¥3225)

以上